

こくりにゆうだより



4月号

大阪府立桜塚高等学校 3年 中尾 太紀
「鉛筆画をメインに、4月の明るいイメージで描きました。」



今後のイベント情報 ※場所の記載がないものはとよなか国際交流センターで開催します。



多文化子育て支援ボランティア養成講座

5月16日(木)、23日(木)、30日(木)、6月6日(木) 10:00~12:00

内容: ①毎週火曜日10:00~12:00 外国人母子のための日本語交流活動「おやこでにほんご」(庄内・岡町・千里の各図書館にて実施)
②毎週木曜日13:30~15:30、金曜日10:00~12:00 多文化子ども保育「にこにこ」(とよなか国際交流センターにて実施)

のボランティアとして活動するために、出産や育児に不安を抱く外国人の現状などについて学ぶ連続講座。

対象: 講座に全回出席し、修了後上記いずれかの活動にボランティアとして継続的に参加できる人

(①は小学生以下の子ども母親/②は保育士資格がある人)

参加費:1000円(全4回分) ※一時保育(無料)あり。5月7日(火)までに要申込(首のすわった乳児~就学前の子ども対象)

申込: 4月22日(月)9:00より電話・来館受付(①は各図書館10名ずつ・②は各活動10名ずつ)

3月2日(土)開催

2018年度から2019年度へ

事業評価会 で振り返る!

「事業評価会」は、当センター・協会で主催している事業について、この一年間の取り組みを振り返り、みんなで共有する集まりです。各事業では、この事業評価会の前に振り返り、今後の展開を考えており、それをこの事業評価会に持ち寄ります。今年の参加者は約60人。32の事業から報告がありました。ネーミングは堅いですが、みなさんの溢れんばかりの想いや意見やアイデアに刺激を受け、さらに励まされる…そんな集まりです。



それぞれの事業からの報告



榎井理事のミニレクチャー

今年は各事業からの報告の後、榎井緑理事のミニレクチャー『外国人をとりまく状況の今』があり、「地域の外国人支援は国の肩代わりではなく、外国人が市民として公正に暮らせる社会を作ることが大事」「現場からの提言や発信が大事」であることを学びました。

最後にワークショップを通して、これから必要なこと／できることを話し合いました。全体を通して浮かび上がった、「周知・広報」「つながり」「外国人の状況把握、声を聴くこと、表現・発信」を大事に、みなさんとの話し合いを積み重ねながら事業を進めていきたいと思えます。

【御礼】クラウドファンディング、目標達成！本当に本当にありがとうございました！

当協会では、これまでの取り組みを振り返るとともに今後を展望するため、『外国人と共生する地域づくり～大阪・豊中の実践から見えてきたもの』を出版します。それに先立ち、2月15日から3月15日までクラウドファンディングで寄付を募ってきました。目標額を大きく超える寄付をいただき、心から感謝しております。



この応援はますますグローバル化が進む中、「これからももっとがんばれ!」というエールとして受け止めています。ピリッと身が引き締まる思いです。6月29日(土)には発刊記念シンポジウムも開催します。引き続き、みなさまの応援&ご協力をよろしくお願いいたします。(協会事務局長・山野上隆史)

2月8日(金)開催

中国・韓国・ベトナムの旧正月のつどい

2月の中国、韓国、ベトナムの旧正月に合わせて、お祝いを兼ねたイベントを開催し、45名が参加しました。

中国の水餃子と四喜団子(大きな肉団子が四つ、「四」は縁起が良い数字です)、韓国のトック(韓国のお餅が入ったスープ)、ベトナムの団子・バンチョイヌック(豆あんが入っているもち米粉のお団子)を作りました。

午前中から多言語スタッフと利用者の外国人市民と一緒に食べ物を作り、お昼からは皆で各国の料理を食べながら、それぞれ自分の国のお正月について話をしました。



たくさん作って全て完食!



親子で参加されている方もいました



各国の料理

同じ日に旧正月を迎えますが、国によってお正月の食べ物はそれぞれです。でも料理に込めた「良い一年になるように」という願いは同じでした。

(多言語相談サービスコーディネーター兼中国語スタッフ・ジャチン)

2月9日(土)開催

哲学カフェ 「立ち止まるのはなんで？」

今年度最後の哲学カフェが2月9日に開催されました。今回のテーマは「立ち止まるのはなんで？」で、20代から70代の幅広い方々にご参加いただきました。話している人の話を聞く、話を遮らない、相手の意見を否定しないという哲学カフェの決まりごとを共有した上で、それぞれの「立ち止まる」について意見を出し合いました。

興味深かったのは「立ち止まる」ということを「課題が見つかり立ち止まらざるを得ないとき」というように否定的に捉えている方と、「課題を乗り越えるために必要なこと」というように肯定的に受け止めている方がいらったことです。

みなさんは「立ち止まる」についてどのように考えますか？

センターでは来年度も哲学カフェを実施します。多くの方のご参加をお待ちしております。

(事業担当：黒島トーマス友基)



＼Youは何しに国流へ？／ 第19回 センターに関わる人たちを紹介します☆

外国にルーツをもつ子どもたちが、母語や文化を学ぶ活動「子ども母語」。同じルーツを持つ子どもが会い、仲間ができる場所でもあります。今回はスペイン語スタッフの小田マルタさんにお話を伺い、インタビュー形式で紹介합니다。

——最初に国流に来たきっかけは？

高校生の頃に、学校の先生に紹介してもらったのがきっかけです。最初はサンプレイス(外国にルーツをもつ子どもの居場所づくりの活動)に子どもとして参加していました。当時、学校の勉強でわからない部分を大学生ボランティアに教えてもらったりしていました。

——子ども母語の活動に参加されて何年目ですか。

今でやっと3年目になりました。今活動に来ている子どもたちは、普段スペイン語に全く馴染みがないわけではないので、日常的な挨拶から少し発展して、少し長い文章を作ってみたり、文法の問題も積極的にやっています。

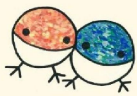
基本的に子どもと相談しながらプログラムは決めるのですが、ペルー料理をつくって食べたり、ピニャータ(お菓子で作ったくす玉)を割る遊びはいつも盛り上がりますね。

——今後活動でやってみたいことはありますか？

今はペルーのことをやることが多いですが、スペイン語を話す国はもっとたくさん世界にありますよね。そういった、さまざまな国の、それぞれの持つスペイン語での交流って面白そうだなあと思います。



子ども母語
スペイン語スタッフ
小田マルタさん



コラム 外国人相談あれこれ (第50回)

吉嶋おあり (外国人のための多言語相談サービス・相談員)

日本人夫のDVから逃れて、幼児二人と生活を始めたAさんは、昼は工場で働き、それだけでは十分な収入がないので、夜も仕事に出っていました。子どもたちは、昼は保育所に行きましたが、夜は家に子どもだけ。近所に住んでいたシングルマザーのお姉さんの長女が子どもたちと一緒に夜を過ごしてくれていました(お姉さんも夜も仕事でした)。とはいえ、その長女もまだ小学校高学年。お母さんたちが忙しく働いているので、大変な状況でみんなで協力していましたが、子どもたちだけで夜を過ごすのは、お母さんも心配でいっぱいだったと思います。

別のシングルマザーのお母さんは、小学校に入ったばかりの子どもがいました。どうしても祝日が休めない仕事をしていました。保育所のときは、休日保育を利用できましたが、小学校になって、学童は休祝日はお休みです。民間学童を利用できるような収入もありません。お母さんは食事を置いておき、休み時間に電話して、子どもの様子を確認してましたが、心配な様子でした。子どもは一日中家でゲームをして過ごしているそうです。

また別のシングルマザーのお母さんも、低賃金の仕事をいくつも掛け持ちして、週7日働いていました。子どもにはちゃんと教育を受けさせたい一心で、一生懸命働いていました。でも子どもは夜や週末は家で一人で過ごし、やはりゲームばかりしていたそうです。

こういう状況の外国人親の家庭は、相談でよくあります。外国人の単親家庭は、近くに親きょうだいや親戚がないことが多いので、助けを頼める人もいません。夜や休日に仕事にいかねばならない経済状況の中で、子どもたちは大人の見守りがなく過ごしています。これは、子どもが安心・安全に過ごすための十分な保育や学童体制が不足しているという、社会的に取り組むべき問題です。あるいは逆に、養育期に、親がゆったりできる就労環境が整うような制度のほうが必要でもあります。

そのどちらもない現在、犠牲は子どもがかぶっています。でもこのような実態を、行政は把握しているのでしょうか？

外国人のための多言語相談サービス やってます！

センターでは毎週金曜日、多言語スタッフと臨床心理士による外国人のための多言語相談サービスを実施しています。

面談でも電話でもOK! 夫婦関係、DV、在留資格、生活、様々な手続き、子ども、教育など、あらゆることに関する相談が可能です。

ネパール語の相談はこれまで職員が対応していましたが、2019年4月からはネパール人のスタッフが多言語スタッフとして対応することになりました。

相談者のエンパワメントを実現する、信頼される相談事業を今年度も目指します。よろしくお願いいたします。

(事務局次長・山本愛)



3月10日(日)

野田小学校区の防災フェア
に参加した多言語スタッフ

日時：毎週金曜日 11:00～16:00 (祝日・年末年始は休み)
対応言語：英語、中国語、韓国・朝鮮語、フィリピン語、
スペイン語、ベトナム語、日本語、ネパール語、
インドネシア語、タイ語

電話番号：06-6843-4343

外国人女性のための相談専用電話：06-6843-0390

登録グループの活動紹介



No.16 国際交流の会とよなか(TIFA)

——登録グループの中でも、活動歴はかなり長い方ですよ。

葛西：そうですね、もう34年目になりますから。34年前、豊中で地域に根ざした国際交流活動が大事だと思ってTIFAを設立しました。定期的に外部講師を招いてセミナーを開いたり、国際交流に興味のある子どもを募集して、毎年夏にはキャンプに行ったりもしています。

——いつも本当にアクティブだなあと思うのですが、企画や中身はどのように決めているんですか？

葛西：TIFAはそれぞれの活動に中心メンバーがいます。セミナー以外にもさまざまな事業を展開しているので、中心となるメンバーが活動を分担してグループごとに運営をしています。

田坂：グローバルサロンもですが、TIFAで講座を開くときの講師は、メンバーが実際に聴きに行ったら良かったと思う方を推薦して決めています。一応最初に、ざっくりとしたテーマや関心事は絞っていますが、最終的には講師の方の生き方にフォーカスしてお話を聞くことが多いですね。

——TIFAはカフェサパナも運営していますよね。たまにランチを食べるのですが、すごくおいしいです！料理を作るシェフが毎日違うのもすごいなあと思います。

筒井：サパナでランチを作ってくれるシェフは、ほとんどがランチ販売として料理をつくるのは初めてだという方々です。

とよなか国際交流センターには、市民による自主的な国際交流活動を支援するための登録グループ制度があります。今回は「国際交流の会とよなか(TIFA)」で活動する皆さんに、活動内容や国際交流への思いを伺いました。

シェフが不安な気持ちで当日を迎えることがないように、TIFAもメンバーと一緒に、事前に試食会やシミュレーションを綿密にやっています。自分でお店を運営している方が「TIFAのお願いならランチ販売やりますよ！」といて予定を空けてくれることもあります。料理をしながらお互いに近況報告をしたり、シェフおススメのものが口コミで広がったりするんです。料理の販売だけにとどまらないコミュニケーションが毎回楽しいですね。



カフェ・サパナでの料理販売の様子

【活動・団体についての問い合わせ先】

団体名：国際交流の会とよなか(TIFA=Toyonaka International Friendship Association)

活動日時：不定期(活動の内容によります)

問合せ：06-6840-1014

tifa99@nifty.ne.jp

WEB：<http://tifa-toyonaka.org/>

〒560-0021 大阪府豊中市本町3-3-3

※2階が事務局、1階がカフェ・サパナ

とよなか国際交流センターおしらせ

「こくりゅうだより」第120号(2019年4月号)

発行元・問い合わせ:(公財)とよなか国際交流協会

〒560-0026 大阪府豊中市玉井町1丁目1-1エトレ豊中6F

阪急宝塚線豊中駅すぐ

開館時間:9:00~21:30(貸室受付は20:00まで、水曜休館)

TEL:06-6843-4343 FAX:06-6843-4375

E-Mail:atoms@a.zaq.jp WEB:<http://www.a-atoms.info/>

多言語情報も
配信しています！



SNSも随時更新中！

「とよなか国際交流センター」で検索！

